

山形大学広報誌

Yamagata University Semiannual Magazine

Midori  gi

みどり樹

特集／山形大学将来ビジョン

「つなぐちから」に
託す想い。

研究室訪問／都市計画・地域居住政策・観光まちづくり

都市計画は、拡大から共創へ。
持続可能な地域づくり。

つなぐちから。 山形大学

共育・共創・共生による
持続可能な幸福社会の実現

Spring
2022
vol. **81**



山形大学将来ビジョン

「つなぐちから」 に託す想い。

社会が急速に変化する予測不可能な時代、山形大学の将来あるべき姿を学生、教職員、地域みなさんと共通認識として持って大学づくりを進めたいと、就任3年目の玉手英利学長が打ち出した将来ビジョンは『つなぐちから。山形大学』～共育・共創・共生による持続可能な幸福社会の実現～。この将来ビジョンを宣言するに至った経緯、そこに込められた想いを玉手学長自身が熱く語った。

「山形大学将来ビジョン」の全文はこちらからご覧になれます。



山形大学将来ビジョン

つなぐちから。山形大学

共育・共創・共生による持続可能な幸福社会の実現

教育のビジョン

- 深く考え実行する力
- 果敢に挑戦する心
- 他者との協働

研究のビジョン

- 知の探究
- 持続的な幸福の追求
- 研究コミュニティの創出

社会共創のビジョン

- 持続可能な地域社会の実現
- 世界へと広がる価値の創出
- 健康長寿社会の実現

経営のビジョン

- 信頼と期待に応える経営
- ステークホルダーの参画
- コモンズとしてのキャンパス

変化する社会の中、大学の在り方とは その方向性を示す「将来ビジョン」

——「将来ビジョン」を策定した狙いを教えてください。

出口の見えないコロナ禍、急速に発展するAI技術など、いまはまさに予想不能で不確実な時代です。誰もが不安を抱くこんな時代だからこそ、山形大学の将来あるべき姿を学生、教職員をはじめ社会に向けて示したいと思いました。それによって、未来への希望を共有して大学づくりを進めていきたいと考えたのです。

将来ビジョンを策定するにあたって、今に至る山形大学の使命・理念の変遷を振り返りました(図1)。18年前、国立大学法人となった山形大学は「自然と人間の共生」を21世紀の基本テーマにしました。その後、第2期中期目標に掲げた5つの基本理念、第3期中期目標に掲げた3つの使命は、山形大学のすべての活動の土台になるものとして根付いてきたと感じています。

これらの使命・基本理念はこれからも変わることがありません。しかし、社会が急速に変化するなかで、これらのミッションを変わずに果たすためには、大学の在り方を変えていく必要があります。将来ビジョンではその方向性を示したいと思いました。

大学の確かな「知」と「自律性」を活かし、教育・研究・社会連携で 存在感を発揮

——“つなぐちから”に込めた想いをお聞かせください。

「つなぐちから」は、山形大学がこれから目指す姿を一言で表現したものです。

新たな知や価値を生み出す創造力は、異質なものと出会いから生まれます。そのためには、さまざまな垣根を越えて、人と人、異なる知と知を結びつける「つなぐちから」となる存在が必要です。

私たちの社会では、情報を集めて価値化する企業や組織が、「つながり」のサービスを提供しています。しかし、それらは、私たちにとって安心できる「つなぐちから」になるでしょうか？

一方、大学には、学術機関として質保証した情報(「知」)を提供するという信頼性があります。そして、特定の意図に支配されない自由な交流ができる学問的な自律性があります。膨大な情報のどれを信じればよ

いかわからない社会で、大学の確かな「知」と「自律性」から生まれる「つなぐちから」は、これからますます重要になります。

山形大学は、6学部・6研究科を有する総合大学で県内4か所にキャンパスがあります。この特性を活かして、教育・研究・社会連携の全てにおいて、「つなぐちから」となる機能を高めて、社会に大きなインパクトをもたらしていきたいと考えています。

持続可能な幸福社会の実現に向けて 社会と共に育ち、創り、生きる大学

——副題で掲げた共育、共創、共生とは何ですか。

第4期中期目標期間で、地方に立脚する国立大学は、これまで以上に地域発展の中核として活躍することが期待されています。山形大学は、長年にわたり地域貢献・地域連携で数多くの実績を積んできました。さらに一歩進んで、これからは、全ての活動において、社会のさまざまなパートナーと共有する目標を立て、それを実現するための資源を集め、力を合わせて実現していくべきだと考えています。そのキーワードとして「共育・共創・共生」を副題に掲げました。

副題では、共育・共創・共生がもたらすゴールを「持続可能な幸福社会の実現」としました。これには少し説明が必要かもしれません。

将来ビジョンに関する学内意見では、幸福という、定義も尺度も多様なものを大学の目標として掲げるのはどうかという声もありました。たしかに幸福という言葉は抽象的ですが、OECDのBetter Life Indexのように、幸福については健康、環境、安全、主観的幸福感など、大学の教育・研究で取り組むことができる社会指標があります(図2)。このような指標の向上や解明に取り組む大学として、山形大学を社会から注目される存在にしていきたいと考えています。

地域と共に景観保全や 施設整備・新設公共財、 コモンズとしての大学づくり

——将来ビジョンで述べられたコモンズとはどのようなものですか。

コモンズ(common)のもともとの意味は、「入会地」のように共同体や社会全体に属する資源です。コモンズという表現で、

●変遷の振り返り

(第1期から第3期中期目標前文から)

第1期 (平成16年～平成21年度)

山形大学は、「自然と人間の共生」を21世紀のテーマとし、教育・研究・地域貢献に真摯に取り組み、次世代を担う人材の育成、知の探求・継承・発展、及び豊かな地域社会の実現に努め、もって人類全体の幸福と国際社会の平和的・持続的発展に貢献する。

第2期 (平成22年～平成27年度)

山形大学は、「自然と人間の共生」をテーマとして、次の5つの基本理念に沿って、教育、研究及び地域貢献に全力で取り組み、キラリと光る存在感のある大学を目指す。

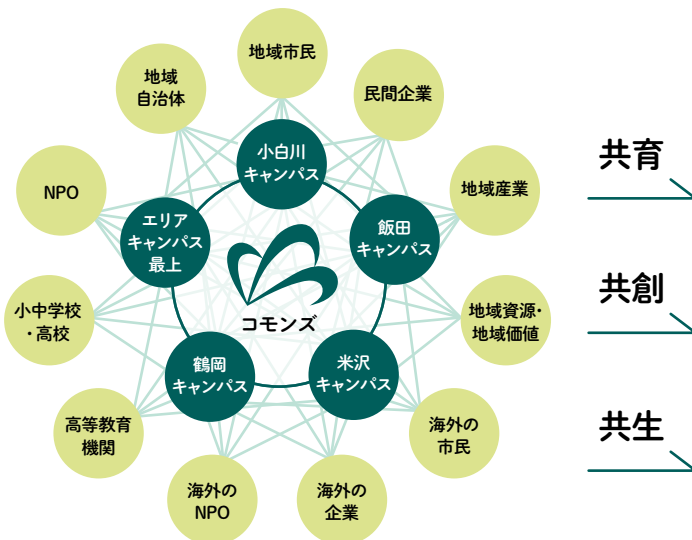
1. 学生教育を中心とする大学創り
2. 豊かな人間性と高い専門性の育成
3. 「知」の創造
4. 地域及び国際社会との連携
5. 不断の自己改革

第3期 (平成28年～令和3年度)

山形大学は、「地域創生」「次世代形成」「多文化共生」を使命とし、学生教育を中心とする大学創り、豊かな人間性と高い専門性の育成、「知」の創造、地域創生及び国際社会との連携、不断の自己改革という5つの基本理念に沿って、教育、研究及び地域貢献に全力で取り組み、国際化に対応しながら、地域変革のエンジンとして、キラリと光る存在感のある大学を目指す。

つなぐちから。山形大学

山形大学の多様なステークホルダー



地域・世界の多様な人々を 時間と空間を超えてつなぐ“コモンズ”へ

- 多様な人々・組織や課題をつなげて、協働で知の創出や問題解決を行う**グローバルな結び目**
- 世代や立場の異なる人々をつなげて、地域で受け継がれる知識・経験をもとに新たな価値を生み出す**地域コミュニティの拠点**

持続可能な幸福社会の実現 (Sustainable well-being)



【出典】 OECD(2020), How's Life? 2020, OECD Publishing, Paris
日本語訳は How's Life in Japan? に基づく。

- 幸福社会の在り方には様々な選択肢
- 幸福の定義も尺度も様々



“幸福”へ科学的にアプローチ
幸福の解明や向上に大学が貢献

図 2

山形大学が、社会にとってなくてはならない公共財であり、そこに集う人々が共育・共創・共生する場であることを示しました。

山形大学が目指すコモンズとは、学生・教職員が世界中の人や組織と共にバーチャル空間で活動するグローバルなハブと、地域の人々と共にキャンパスで活動する地域コミュニティのコアになることです。

このようなコモンズとしての大学づくりについて、例を挙げたいと思います。

米沢キャンパスには、約110年前の1910年に開校した国の重要文化財・旧米沢高等工業学校本館があります(図3)。その横の東西約100メートルの通りに、見事なケヤキ並木が立ち並んでいます(図4)。

このケヤキ並木は、旧米沢高等工業学校本館と共に、学生・教職員だけでなく市民からも愛される景観となっています。しかし、樹木の老朽化や歩道の安全確保などの問題から、一時は伐採することが検討されました。その後、保存を求める声が多く寄せられ、米沢キャンパスでは、クラウドファンディング型の山形大学基金「ケヤキ並木

等景観保存プロジェクト」を立ち上げました。このプロジェクトでは、ご賛同いただいた方のご寄付をもとに、ケヤキ並木などキャンパスの貴重な景観を地域のコモンズとして将来にわたり保全する計画を立てています。

米沢キャンパス以外でも、小白川キャンパスのグラウンドの改修、飯田キャンパスのYU-MAIセンターの整備など、コモンズとしての施設整備が進んでいます。さらに、令和4年度には、イノベーション・コモンズを目指した組織整備で、地域共創STEAM教育推進センターと、アグリフードシステム先端研究センターを設置します。

今後、こういった事業が増えて、コモンズとしての大学づくりが進むことを期待しています。ただし、コモンズが適切に管理されないと、資源が枯渇する「コモンズの悲劇」が起こります。そうならないために、これからは、社会の様々なパートナーと責任ある互恵関係を結び、社会からの資源を集めてコモンズとしての大学を発展させる、この意識を大学全体で共有したいと考えています。

全てのキャンパスで意見交換会を行い 将来ビジョンの意義や方法論を共有

——それぞれのビジョン・目標については、どのような意見・質問がありましたか。

「教育のビジョン」については、「AIの時代を生きる人間には、どのような人材や教育をイメージしているか」との質問がありました。

人材については、私なりの考えとして、「課題を設定する能力、なすべきかなさざるべきかを判断する能力、経験則に捉われない新たな概念を生み出す能力を備えた人材の育成です」と答えました。具体的な教育については、その基礎となる数理・データサイエンス・AI教育の全学展開を第4期中期計画で進めます。

また、目標2の「果敢に挑戦する心」をどうやって育てるのかについても、質問がありました。

「挑戦する心」は、学生がキャンパスライフでの様々な経験を通じて自分の成長を実感することで育つものだと思います。そのような活動の場を多く設けることが大学の役割です。

その場は教室ではありません。例を挙げれば、基盤共通教育「フィールドラーニング―共生の森がみ」で地域課題に取り組んだ学生の中から、授業終了後も地域住民との協働を続けるグループが生まれています。

山形大学の学生は、まじめに物事に取り組む姿勢と自立心をもっています。コロナ禍でも内向きにならず、今まで経験したことのない新しいことに思い切って挑戦してほしいと願っています。そのために、授業や課外活動などで、さまざまなチャレンジの機会を設けて、学生が自分の成長を実感する「学び」を実現したいと考えています。

「研究のビジョン」については、総合知について質問がありました。

ここでいう総合知とは、多様な学問分野をつなげて、新たな概念や価値を生み出す研究の在り方です。研究は分野にわかれた縦割りになりがちです。しかし、複雑な問題については、特定の分野だけでゴールに辿り着くことは困難です。例えば、カーボンニュートラルについては、理工学の分野で技術開発が進んでいますが、その成果を社会で実装するためには人文社会科学系の研究も必要です。

山形大学にはこの2年間で47名もの若手教員が加わり、総合知の研究コミュニティを創出する好機が訪れています。この機を逃さず、分野・部局・機関を超えた研究交

流を一層促進する新たな取組を行いたいと考えています。

「社会共創のビジョン」については、「地域」がどこを指すのかについて、質問がありました。

山形大学が対象とする「地域」には複数の枠組みが考えられます。まず、山形県は本学にとって最重要の「地域」です。山形大学は、第4期中期目標期間に、山形県を活動の場とする「地域連携プラットフォーム」※を構築し、地域人材の育成と新たな地域価値の創出を進めます。さらに、学生の出身地、経済圏の広がり、医学部東日本重粒子センターの役割、大学間の連携などを考慮すると、山形大学にとっては、県を超えた「地域」での活動も大変重要です。

目標1で、「地球的な視野」と表現した理由についても質問がありました。これは、大学の活動が地域に限定されないことを意味します。山形大学の社会共創が、山形県などと同様の地域課題、例えば農業や医療などに関する課題を抱える海外の国々にも広がることを期待しています。

最後に、「経営のビジョン」についてですが、これまで述べてきたように、この山形大学将来ビジョンでは「コモンズ」がキーワードの一つになっています。多様な人々をつなぎ、活動するコモンズとして、地域にとって不可欠な存在となることを目指し、社会からの信

頼と期待に応える大学経営を進めます。

「つなぐちから」のもと、今後さらに地域の持続的発展に貢献する大学へ

——最後に、これからの山形大学への想いをお聞かせください。

山形大学は、第2次世界大戦が終わって間もない昭和24年(1949年)に、山形県内に設置されていた5つの高等教育機関を母体として開学しました。当時は、他地域の国立大学との統合案もあったなかで、山形県に本学が設置されたことには、地域の発展を願う人々の大きな期待が込められていたと思います。その期待に応えて、これまで山形大学は10万人を超える有為の人材を世に送り出し、社会変革の原動力となってきました。

人口減少が進む令和の時代、地域の持続的発展に貢献する山形大学への期待は、ますます高まっています。これからさらに地域との関係性を深め、地域から愛され頼られる大学になっていきたいと思っています。将来ビジョンの「つなぐちから」が、多くの人に我々の想いを届ける力強い言葉となることを期待しています。

※ 地域連携プラットフォーム：地域の複数の大学等と地方公共団体、産業界等が恒常的に協議し、連携して課題解決に取り組む組織



図3：約110年前の1910年に開校した国の重要文化財・旧米沢高等工業学校本館



図4：米沢キャンパス内の約100メートルのケヤキ並木

「山形大学将来ビジョン」の全文はこちらからご覧になれます。



YAMADAI TOPICS

人文社会科学部

Faculty of Humanities and Social Sciences

まだまだ学び足りない 大人たちへ



大学レベルの学問を学び、社会で活躍するための知識や考え方を身につけることを目的とした社会人向けの講座「エクステンションぶらす」が2021年12月8日からスタートしました。今期は、簿記、ダイバーシティ&インクルージョン、英語力、漢文及び人類学をテーマとした5つの講座を開講。全ての講座は全3回(各90分)で構成され、時間をかけて基礎から深く学ぶことができます。

鈴木亨教授(英語学、人文社会科学部主担当)の講義「英語は丁寧に読むと面白い」では、英語の児童書、小説、文学作品を題材に読解のポイントを解説。毎回の課題と講義で英語力を磨きなおしました。

受講者からは「課題があり少し緊張したが、課題のおかげで講義の内容がよく理解できた」、「英語小説を曖昧に読み進める事が度々あるが、自分の理解が合っているか後から確認できるのは良い機会だった。また『ここはちゃんと読めていた』と自信にもつながった」などの意見が聞かれました。

地域教育文化学部

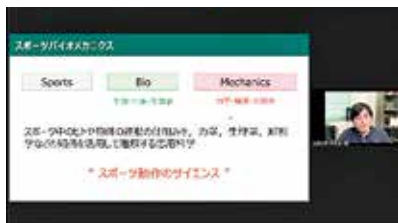
Faculty of Education, Art and Science

コロナ禍でも 学び続ける人を 応援します

2021年11月28日(日)、「公開セミナー～コロナ禍でも学び続ける人を応援します～」を開催しました。心の健康や豊かさを含めたサービスを地域の皆様に提供する「健康と学びのサポートセンター」(CWB)設立と、社会人の方に山形大学の教育プログラムを活用していただく「エクステンションぶらす」のキックオフイベントです。

地域教育文化学部の分野からは三上英司教授(中国文学、漢字・漢文教育)、井上功一郎准教授(スポーツバイオメカニクス、運動力学)が講師を担当。それぞれの専門分野の漢文、スポーツ科学の視点から「学び」が紹介されました。

セミナーはオンラインで配信され、日本全国から延べ150名が参加。「コロナ禍後の社会をどのようにして先がけて考えていけるか。そして学び続けていけるか。考えるきっかけとなった」などの感想が寄せられました。



理学部

Faculty of Science

「研究って楽しそう」 山形大学理学部 見学会を開催



山形大学理学部の特色や雰囲気を体験してもらうための見学会が2021年12月24日、山形大学理学部(小白川キャンパス、山形市)で行われました。

見学会には山形県立山形南高等学校理数科2年生31名が参加。学部説明、学生生活紹介、研究室訪問を通じ各分野の理解を深めました。

研究室訪問では、教員・在学生の案内で理学部棟内の研究室や施設の見学が行われ、数理学、化学、物理学、生物学、地球科学、データサイエンス各分野の実験装置や研究内容が紹介されました。参加した高校生から専門的な質問が行われる場面もあり、「よりレベルの高い学習への意欲が高まった」「実際に研究室を見ることで興味がある分野が増えた」「研究者の方々が楽しそうにしていたのがとても印象的」などの感想が寄せられました。

各学部からさまざまな話題や近況が届きました。
山形大学の多方面での活動、活躍にご注目ください。

医学部

Faculty of Medicine

新型コロナワクチン 接種への協力に対し、 山形市から感謝状が 贈呈されました

山形市は令和3年6月から7月にかけて、山形ビッグウイングを会場として新型コロナワクチンの集団接種を行いました。山形大学医学部では、教職員・学生が予診、ワクチン接種、会場誘導などを担当し、関係する機関の皆様との連携により、約29,000人の山形市民の皆様へ接種を行うことができました。その結果、9月1日時点の2回目接種が終わった住民の割合が56.6%（全年代対象）と全国主要都市の中で最も高い都市となりました。（日本経済新聞調査結果）

10月28日、本集団接種への協力に対し、佐藤孝弘山形市長から上野義之医学部長に感謝状を贈呈いただきました。上野学部長は「医学部としても、ぜひ地域貢献したい、今後続く集団接種のロールモデルになりたい、と考えた。医療関係者だけでなく、市、市民が一丸となって取り組んだ結果だ」と話していました。

医学部では、引き続き地域医療への貢献とともに、より質の高い医療の提供をめざします。



工学部

Faculty of Engineering

『マテリアル人材 コンソーシアム』との 連携が進んでいます



本学は文部科学省「科学技術イノベーション創出に向けた大学フェローシップ創出事業」に採択され、令和3年度から、「山形大学ソフトマターイノベーション博士人材育成プログラム」を実施しています。本コンソーシアムは、このフェローシップ創出事業と連携し、博士後期課程の学生教育を実施するものとして、昨年10月に設立されました。本学の教員と材料科学とその応用に関する事業を展開する企業が連携して学生を指導するほか、企業から生活費・研究費などを支援いただき、企業に対しては、本学が最先端のリカレント教育を実施します。

10月22日の設立総会には、参画企業11社の皆さまを工学部に招き、伊藤浩志教授らによる記念講演会や本プログラム1期生10名を交えた交流会も行われました。12月にはマテリアル人材育成講演、今年2月にはマテリアル人材セミナーも開催され、企業との活発な交流の中で、新しい人材育成の取組が進められています。

農学部

Faculty of Agriculture

山形大学オリジナル 純米大吟醸酒「燦樹 (きらめき)2022」が完成

このたび山形大学オリジナル純米大吟醸酒「燦樹(きらめき)2022」が完成し、2月1日(火)より販売を開始しました。

「燦樹2022」は、本学部附属やまがたフィールド科学センターエコ農業部門(高坂農場)で栽培された酒米「出羽燦々」を100%使用しており、昨年はコロナ禍により醸造を見送ったものの、今回から奥羽自慢株式会社(鶴岡市)が醸造を行っています。

醸造本数は720ml瓶で生酒500本、火入酒1,300本の合計1,800本の販売を予定しており、価格はどちらも1本1,980円(税込み)。売上の一部は学生への支援として活用されます。

1月13日(木)に行われた学長定例記者会見で、奥羽自慢株式会社の製造責任者・阿部龍弥氏と本学部附属やまがたフィールド科学センター技術専門職員・田中健一氏、山形大学生協同組合専務理事・高橋直也氏が新酒の完成及び発売について発表を行いました。

この「燦樹」は、山形大学生協店舗のほか、同組合ホームページからの購入も可能です。この機会にぜひご賞味ください。



Hello!
研究室
訪問

景観づくりに携わる 小野川温泉にて

景観をより良くしたいと考える温泉街の人々から相談を受け、それ以来、何度も訪れている小野川温泉。フィールドワークの場として学生たちと訪れるケースもある。

都市計画は、拡大から共創へ。 地域資源を活かして目指す 持続可能な地域づくり。

高澤由美 准教授(建築・デザイン・マネジメント)

人口減少やサステナブル社会を目指す世界的な取組など、社会情勢の変化を受けて都市計画のあり方も大きく変容している。都市計画や観光まちづくりを専門分野とする高澤由美准教授の研究テーマは「ウェルビーイング(幸福感)の向上に寄与するローカルツーリズムの再構築」。今ある地域資源に新しい価値を見だし、来訪者や地域の人々の幸福感を高めようと山形県内の観光地で様々な活動に取り組んでいる。

地域資源を活用した都市計画 小野川温泉での調査と学び

建物や景観に興味があり、大学では建築学科出身の先生のゼミに所属していたという高澤先生。しかし、その指導教員の「建物だけ良くなっても周りの地域が必ずしも発展するわけではない。地域全体が良くなっていくことが大事」という言葉に刺激を受け、都市計画に興味を持つようになった。都市計画というと市街地開発をしたり、道路を整備したり、何かを新しく造ることをイメージしがちだが、2000年頃から縮小していく社会情勢に対応しながら変化していくことが求められるようになった。多様化する社会課題を解決するために都市計画に関わる分野も歴史や観光、環境、景観など徐々に拡がりつつある。そんな変化を受けて、高澤先生の関心は、都市計画を基盤としながらも、その周辺のまちづくり、地域づくりへと広がっていった。

高澤先生は、10年ほど前に米沢市からの依頼で市が取り組む景観形成計画にファシリテーターとして参加。それをきっかけに景観重点地区であり、景観をなんとかしたいと考えていた小野川温泉との繋がりが生まれ、いろいろ関わっていく中で温泉の泉質や集客についても相談を受けるようになっていった。高澤先生自身が様々な調査で何度も小野川温泉を訪れ、泉質等については学内他分野の先生方の協力も得ながら調査。地域の人々との連携も深まり、学生たちのフィールドワークの場にもなっている。

観光に幸福の向上という 新たな価値を創出する取組

現在、高澤先生は「ウェルビーイングの向上に寄与するローカルツーリズムの再構築」という研究テーマで観光の新たな価値の創出に取り組んでいる。コロナ禍で働き方や学習環境、家庭環境もニューノーマルが定着しつつある今、従来型の余暇・息抜きとしての観光だけでなく、地域資源を活かして来訪者の心身の健康に貢献し、ウェルビーイング（幸福感）を感じてもらえる観光の構築を目指すというもの。まず、幸福感という主観的で個人差のあるものをより客観的に判断するためのデータ収集として、アンケー



高澤由美

たかさわゆみ ●准教授／専門は都市計画・地域居住政策・観光まちづくり。神戸大学自然科学研究科修了、博士(学術)。2016年に着任。山形県内各地で地域資源を活かした地域づくりの研究・支援を行なっている。

トによる主観的幸福の計測と心拍数や脳波などの生理的計測を並行して行なう。昨年の夏に小野川温泉で実施し、今後は県内の他の観光地でも実践したいとしている。

山形県には、たくさんの温泉があるほか、美しい自然景観や歴史的な建造物、街並みなど、多彩な地域資源に恵まれている。高澤先生は本研究の成果をウェルビーイング観光地マップに落とし込んでローカルツーリズムの再構築に寄与したいと考えている。来訪者の趣味嗜好、その時の気分によって、その人にお勧めの目的地を提案したり、どこへ行くかと迷ったときに指標となる地図。その完成に向けては、調べるべきこと、実験データがもっとも必要で、地域の人々や学生たちの協力が欠かせない。

アフターコロナを見据えて 地域版 MICE の誘致を提案

地域資源を活かして来訪者のウェルビーイングに貢献する、その先に高澤先生が見据えているのは、地域版 MICE（学会や国際会議、イベントなど、ビジネスに関連する集客・交流）。温泉や自然など、既にある地域資源を活用して国際会議やイベント等を誘致することで単なる観光以上の経済効果が得られるとして政府や観光業界も推奨している。国際会議を自然豊かな屋外で行なった海外の事例では、会議室での会議よりも盛り上がり、成果も上がったという。

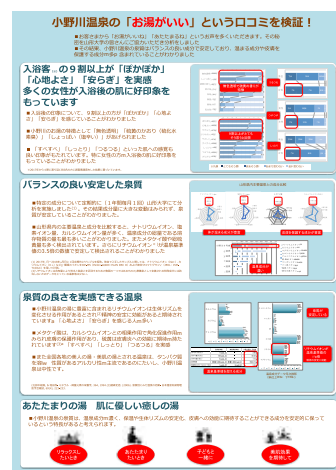
「眠れる資源の発掘も私の研究対象の一つ。山形にはすでに温泉 MICE という取組があります。四季折々の風情ある景観、生活する上では厄介な雪さえも地域資源として強力なアピール材料になるに違いありません」と高澤先生。山形を訪れることで得られる幸福感を主観的要素と科学的分析の両面から検証し、集客につなげる。これが地域資源を活かした持続可能な地域づくり。県外、海外からの集客が叶うアフターコロナが待ち遠しい。

旅館のご主人との打ち合わせ風景



小野川温泉の景観づくりについて相談を受ける中で地域の人々との関わりがどんどん深まり、温泉の泉質や集客の話にまで広がっていった。それぞれの専門分野の先生方にも協力いただき、アドバイスをもらっている。

「お湯がいい」をアピールするチラシ



小野川温泉の泉質を調査し、学術論文にまとめて発表。その結果を地域にフィードバックするために小野川温泉の「お湯がいい」という内容のチラシを作成。観光客にも親しみやすく読みやすい工夫されている。

ウェルビーイング実験の説明会



昨夏に実施した実験時にウェルビーイング（幸福感）や実験方法について説明している様子。社会人や学生が被験者として、幸福度に関してアンケートによる主観的データと心拍数などの生理的計測データの収集に協力。

実験、足湯のリラックス効果は？



足湯で被験者のみなさんがリラックスする実験中の一コマ。まち歩きや足湯などを体験する前後に幸福度に関するアンケートや心拍数の計測を行い、その変化から地域資源のウェルビーイング向上効果をチェック。



豊田龍平

とよだりゅうへい ●山形県出身。
2021年社会文化システム研究科修了。山形大学事務職員。令和3年度「ティーデマン・ふすま賞」を受賞。

探究の成果

現在、本学飯田キャンパス事務部学務課医学科担当の主任を務める豊田龍平さんは、本学人文学部の卒業生。学部学生時代は、松尾剛次先生に師事して日本中世史を専攻。高校地理歴史科の教員になることを目指して採用試験の勉強をしていた4年生間近の3月、東日本大震災が発生。被災者や被災地に対して何ができるか考えた結果、「山形文化遺産防災ネットワーク」の活動理念に共鳴して被災文化財レスキューボランティアに参加。それが契機となり、地域の歴史・伝統や文化財を守りたい、学びたいという思いをより一層強くしたという。そうした心境の変化から改めて進路を模索した末、大学という「場」を身近に感じていたい、大局的にみれば大学で学生や先生をサポートすることも「教育」なのだ、と納得できてたどり着いたのが母校の事務職員という「道」だった。入職後、6年間は仕事に専念していたものの、リカレント教育を推進しようとする時勢や本学の動向にも背中を押され、社会人学生として大学院で学びたいという思いから一念発起。平成30年度に社会文化システム研究科への入学を果たし、母校であり、職場でもある山形大学が、戦後どのような経緯で創設されたのかを掘り下げることを研究テーマとした。

豊田さんの修士論文「新制国立大学山形大学の創設過程—山形高等学校の大学昇格運動を中心に—」は、調査により発見した資料に考察を加え、本学創設の経緯や出来事を明らかにしたもの。本学同窓会組織の一つ「ふすま同窓会」が授与している「ティーデマン・ふすま賞」を受賞した上、内容の一部がふすま同窓会設立100年、小白川キャンパス創設100年を記念して作成された小冊子でも紹介された。

「学部学生時代からお世話になっている先生方をはじめ、職場、そして何より家族の協力があってこそ実現できた大学院での学び直し、感謝の気持ちでいっぱいです。後輩の皆さん、人生100年時代、まだ目標がみつかってないとしても焦らなくていい。チャレンジする姿勢を大切に貴重な大学時代を謳歌してください」と、豊田さん。受賞の喜びを周囲への感謝と後輩たちへのエールという形で表現した。



山大聖火リレー



周囲の理解で実現した大学院での学び直しの成果で「ティーデマン・ふすま賞」を受賞。

豊田龍平 山形大学事務職員



母校であり、職場でもある山形大学の歴史を詳らかにした豊田さんの修士論文「新制国立大学山形大学の創設過程」と、参考文献として収集した当時の新聞記事や関連書籍等々。



昨年10月、コロナ禍のため、参加者を県内在住者に限定して開催された「ふすま同窓会百周年記念祭」。その式典の中でティーデマン・ふすま賞の授賞式が行われ、賞状が授与された。

佐藤朱音

さとうあかね●地域教育文化学部児童教育コース4年。山形県出身。Ymgt Eats代表。卒業後は小学校教員に。

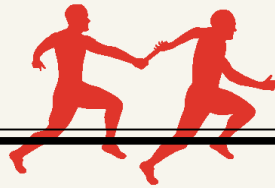


佐藤駿

さとうしゅん●地域教育文化学部文化創生コース4年。山形県出身。Ymgt Eats代表。卒業後は一般企業へ。

山形大学で学んだこと、過ごした日々、
それらはやがてさまざまな成果となって、社会に燦々と火を灯す。
現役山大学生や卒業・修了生たちが各方面で活躍する姿を追った。

Humanities and Social Sciences・Education, Art and Science・
Science・Medicine・Engineering・Agriculture



発信の成果



食育・地産地消を推進するためのプロジェクトYmgt（ヤマガタイツ）
が取り組んだ活動の成果をまとめた冊子「やまがた食育・地産地消ガイド
2020」。QRコードで調理動画の視聴もできる。



Ymgt（ヤマガタイツ）のメンバー11名の代表を務めた2
人の佐藤さん。コロナ禍で全員が集まることは難しく、リモート
でのミーティングが多かった。

活動制限の中で生まれた新たな取組 情報発信による食育・地産地消の推進。

佐藤朱音 地域教育文化学部4年 / 佐藤駿 地域教育文化学部4年



地域教育文化学部では、3年生を対象に
様々なテーマで地域と連携して活動を行う授業「フィールドプロジェクト(FP)」を実施して
いる。令和2年度の3年生11名が食育・地
産地消を推進するチームとして発足させたのが
「Ymgt Eats(ヤマガタイツ)」。

まず、チームの結束力を高めるためにチーム名をロゴデザイン化し、オリジナルTシャツを作製。例年、地域のイベント等で料理を提供するなどの活動を行ってきたFPだが、コロナ禍により活動が制限される中で何ができるか、代表の佐藤駿さん、佐藤朱音さんを中心にメンバー全員で考え、話し合い、食育・地産地消につながる情報発信をすることにした。令和3年3月に冊子「やまがた食育・地産地消ガイド2020」を発刊。山形県の郷土料理である納豆汁や山形県の在来野菜(伝統野菜)である赤根ほうれん草と食用菊を使ったパスタと生春巻きを紹介するとともに、地産地消に取り組む山形市内の飲食店2店舗取材し、紹介している。ちなみに、パスタと生春巻きは、取材したお店からアイデアをいただき、FP担当の楠本健二先生からアドバイスを受けて完成させたオリジナル料理。

料理や食材の歴史や由来、作り方、栄養成分、1食当たりの材料費まで網羅し、さらに、ページ内にQRコードを貼り付け、簡単に調理動画を視聴できるようにした。原稿やレシピのまとめ、調理動画の撮影、編集もすべて学生たちが主体となって完成させた。学生たち自身が食育や地産地消に関する知見を深めたことはもちろん、食味の工夫や動画配信などによって若い世代が郷土料理や地元食材に興味を持つきっかけもつくれた。この経験を、駿さんは「マネージメント力や発表する力を社会でも活かしたい」と述べ、朱音さんは「小学校教員として子どもたちの食育につなげたい」と語った。本学も積極的に取り組むSDGsにもつながる意義ある一冊、今後もFPモデルの一つとして後輩たちに受け継がれて第2弾、3弾が発刊されることを期待したい。

※ 所属や学年は取材時のものです。

empower!

YU-SDGs Award 2021

山形大学は2020年4月の玉手学長の就任以来、国連によるSDGsの枠組みを最大限に活用し、それらの活動を一層加速させるため、その姿勢を「empower!」（エンパワー：力づける、力を与える）という言葉に込めて様々な取組を行っています。

これらの取組の一環として昨年9月、SDGsの達成に貢献する優れた教育・研究・学生活動・大学運営等を行っている大学の個人・団体を表彰するとともに、今後の活躍が期待できる活動を支援することを目的とした「山形大学SDGs表彰(YU-SDGs Award)」を創設し、募集を開始しました。

栄えある第一回となる2021年度は、10

件の応募が寄せられ、審査基準に基づく厳正な審査の結果、大賞1件、優秀賞3件、奨励賞2件が決定。12月21日、小白川キャンパスにおいて「YU-SDGs Award 2021」表彰式を開催し、ウェビナーで配信しました。

表彰式では、はじめに林田光祐副学長（YU-SDGsタスクフォースリーダー）から表彰プログラム及び授賞理由について説明の後、玉手学長から受賞者へ表彰盾と活動支援金(目録)がそれぞれ贈呈されました。続いて受賞者によるプレゼンテーションが行われ、講評で玉手学長は「受賞おめでとうございます。大学という社会に開かれた場所でSDGsに取

り組むことは、様々な人達とつながり、非常に意味のあること。これから皆さんの活動が世界に向けて広がることを願っています」と期待を込めたメッセージを贈りました。

今後も山形大学のSDGs推進活動にぜひご注目ください。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



「YU-SDGs Award 2021」受賞者



がんゲノム管理室コアメンバー

「がんゲノム検査の実現と展開～山形オリジナルのプロジェクトを含めて～」

優秀賞 Team 道草「Team 道草のプロジェクト」

優秀賞 模擬裁判実行委員会「模擬裁判って？ 模擬裁判と SDGs」

優秀賞 バイオマス資源学研究室「米加工副産物の有価資源化に関する研究」

奨励賞 附属特別支援学校「地域の人とつながり、県産材を通して山形の森林を元気にしよう」

奨励賞 工学部国際交流センター「米沢キャンパスのグリーン化推進英語活動」



「YU-SDGs Award」の募集内容等の詳細については、以下をご覧ください。

YU-SDGs
EmpowerStation



村山広域圏での学会・大会・研究会等、ご相談ください

(7市7町)

主な支援

- ◆ コンベンション開催助成金(上限額700万円)※
- ◆ ハイブリッド開催や感染症予防に係る費用への支援(上限額100万円)※
- ◆ アトラクション費用支援(上限額10万円)※
- ◆ 開催用貸切バス費用支援(上限額50万円)※

※()内は令和3年度の上限額です。

開催前年度の8月締切

他にも、会場選びから
企画・準備・本番まで
サポートします!

JR山形駅西口エリアの施設紹介



やまぎん県民ホール
大ホール(2,000人収容)



山形デルサ、
デルサホール(800人収容)

ご相談はお早めに! 詳しくは下記までお問い合わせください!



一般財団法人 山形コンベンションビューロー

☎023-635-3000

✉ sales@convention.or.jp

山形 コンベンション

検索

村山
地域

庄内地域での学会・研究会等 開催支援しております!



開催支援
詳細

鶴岡市・酒田市・三川町・庄内町・遊佐町及び戸沢村で開催の学会等の開催支援を行っています。お気軽にご相談ください。

令和
3年度
には

リアル開催に加えて、ハイブリッド開催も助成金対象(上限700万)
感染症対策 + ハイブリッド開催経費 も支援(上限100万)

- ① 歓迎看板の掲出
- ② 各種業者の紹介
- ③ 観光パンフ・コンgresバッグ提供
- ④ エクスカーション等の相談 等もご支援いたします!

* 支援額などの詳細は新年度に入り決定しますのでご確認ください。
* 各種詳細はwebサイトもしくは当協会までお問合せください。

庄内観光コンベンション協会 TEL.0235-68-2511

《やまがた庄内観光サイト》 <https://mokedano.net/>



庄内
地域

山形大学の先生方・関係者の皆様へ

上杉の城下町米沢での学会・研究会等を 開催支援します!

- 現地開催またはハイブリッド開催への
コンベンション開催助成金あります!(最大700万円助成)

- ハイブリッド開催や感染症予防対策に
係る経費を助成します!(最大100万円助成)

※コンベンション開催助成金の交付条件はHPを
ご参照ください。

URL <http://yonezawa-convention.biz>



その他こんな支援サービスも
あります!

- ・ 歓迎看板の設置(米沢駅・会場)
- ・ 歓迎アトラクション費用助成
- ・ コンベンション弁当の手配
- ・ コンベンションバッグ販売
- ・ 観光パンフレット・
ビニール袋の提供



佐藤

コンベンション担当

伊藤

米
沢
市



米沢コンベンションビューロー

【事務局】一般社団法人米沢観光コンベンション協会

TEL 0238-21-6226

FAX 0238-22-2042

〒992-0052 山形県米沢市丸の内1-4-13 上杉神社臨泉閣内

E-mail info@yonezawa-convention.biz

米沢 コンベンション

検索

見つけて!感じて!
サイエンスマジック!

Be☆らぼ!

山大サイエンスカー
...

金曜日
(第1週)
20:00 - 20:30

月
日
()
日直
スリ
テー
シヨ
ン

県内各地の中学校で「出張実験×ラジオ放送」を展開中です♪
最新の科学をわかりやすい実験を通して紹介!
生徒たちの間で流行していること、学校の特色・取り組みなども
インタビューしていきます!



栗山恭直
(山形大学教授
(理学部担当))



福田雅
(リズムステーション
アナウンサー)

県内の中学生にもっと科学の楽しさを知ってもらいたい!そんな思いを胸に、
栗山先生と福田アナウンサーが、山大サイエンスカーで出張実験にまわります。
サイエンスマジックを見つけてもらうためのスペシャルプログラムです♪
これまでの実験回数はなんと100回以上にもなります。

実験で大切にしているのは
「身の回りにある不思議に
科学で迫っていく」
というスタイル!!
今回は新庄市にある
萩野学園での実験の
様子を紹介します。

新庄市立萩野学園



ちなみに水素と酸素に火を近づけると、
大きな音を立てて爆発が起こります!!
最初は怖がっていた中学生も、途中から
もっと大きな爆発を起こそうと積極的に
いろんな方法を自分から考えていました。

実験のテーマは『電気分解』。
「水は電気による分解を行うと水素と酸素になる」...
中学校の理科で習う内容なのですが、
Be☆らぼの実験は一味違う!!
実際に水素と酸素が発生している事を
確かめるために火を近づけて
その反応を見るのがこの実験のポイント♪



爆発が起きるほど強い水素パワー。
現在は「燃料電池」としての
研究・実用化が盛んに行われています。
人類の未来を明るく照らす「科学」。
その可能性に触れることができるのが
「Be☆らぼ!山大サイエンスカー」です!!

これからも
*Let's enjoy
science magic!*



From Yamagata

毎週金曜 12:00 - 12:30

山形県出身で全国を舞台に活躍するアーティストの日常を切り取ったアーティスト番組。
週替わりで登場する全8アーティストが、エフエム山形でしか聞けない時間を届けます!

- 第1週 ①『バスビエ OTONARI ROOM』 出演:三澤勝洸 (村山市)
②『9mm Parabellum Bullet 菅原卓郎 CODE999』 出演:菅原卓郎 (鶴岡市)
- 第2週 ①『最上川司 まつばいらじお』 出演:最上川司 (河北町)
②『fox capture plan 山形捕獲計画』 出演:fox capture plan (井上町・河北町出身)
- 第3週 ①『EnGene. トランSMissionレディオ』 出演:EnGene. (山形市、朝日町)
②『阿部菜々実 ナナミナラジオ』 出演:阿部菜々実 (山形市)
- 第4週 ①『三上ささこ Let Me CH♥EER You Up!』 出演:三上ささこ (山辺町)
②『ラジシベ!』 出演:林部智史 (新庄市)



株式会社エフエム山形

本社/山形市松山三丁目14番69号 TEL 023-625-0804
庄内支社/鶴岡市茅原町28番47号 TEL 0235-22-6800

番組ブログ更新中! 山形大学のホームページで過去の放送を聴くことができます! www.rfm.co.jp

周波数

山形 80.4MHz
鶴岡 76.9MHz
新庄 78.2MHz
米沢 77.3MHz



山形大学基金ご協力をお願い

日頃より山形大学にご支援を賜り厚く御礼を申し上げます。山形大学基金は、本学における学生支援及び教育研究支援等に資することを目的に創設いたしました。本基金の趣旨へのご理解を賜りますとともに、今後ともより一層のお力添えを賜りますよう、よろしくお願いいたします。

山形大学基金では、次に掲げるご支援をお願いしております。

- 経済的修学困難学生へのご支援
- 大学公認学生サークルへのご支援
- 山形大学運営全般へのご支援
- 学部等へのご支援
- 附属学校への支援
- やまだ未来へつなぐプロジェクト
〈ケヤキ並木等景観保存プロジェクト、「自然と人間の共生」再興（再考）プロジェクト〉

お問合せ

山形大学基金事務局

TEL 023-628-4497 FAX 023-628-4185 E-mail : yu-kikin@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

山形大学基金
ホームページ



「山形大学基金」にご寄付いただいた皆様のご芳名

山形大学基金ホームページに掲載させていただいております。下記の URL または QR コードからご覧ください。心より御礼申し上げます。（なお、公開を希望されていない方々につきましては、掲載していません）

https://www.yamagata-u.ac.jp/jp/fund/about_fund/gratitude/



「山形大学基金」寄附申込 払込取扱票のご記入等について

■ 払込みについて

1. この払込用紙は、ゆうちょ銀行・郵便局及び銀行共通でお使いいただけます。

口座名義：国立大学法人山形大学

みずほ銀行	山形支店	普通	1136024	荘内銀行	山形営業部	普通	1033799
山形銀行	本店営業部	普通	0059501	きらやか銀行	本店営業部	普通	1019406

2. A 払込取扱票（振込通知書）は申込書を兼ねていますので、必要事項をご記入ください。
3. ゆうちょ銀行・郵便局及び上記銀行の本支店間を通じて振込まれた場合、払込手数料は不要です。

【ご記入方法】

“「山形大学基金」寄附申込 払込取扱票のご記入等について”の①～⑪をご覧ください。

- ① ご寄附いただく金額をご記入ください。
 - ② 振込先銀行を選択してください。ゆうちょ銀行・郵便局からご寄附いただく場合は、振込先の選択は不要です。
 - ③ 寄附目的コードを括弧内にご記入ください。（コードは払込票下部に記載）
なお、コード2, 4, 6について該当するサークル、学部等、プロジェクト名をご記入ください。
※サークル・プロジェクト名は右下の QR コードから web サイトで確認してください。
 - ④ 山形大学との関係について、該当するコードをご記入ください。（コードは払込票下部に記載）
 - ⑤ ご依頼人の生年月日をご記入ください。
 - ⑥ 卒業生・修了生等の方は、卒業・修了年及び卒業学部・修了研究科等をご記入ください。
 - ⑦ 在学生・卒業生のご家族の方は、在学生・卒業生のお名前をご記入ください。
 - ⑧ 退職教職員の方は退職時所属部局を、現職教職員の方は所属部局をご記入ください。
 - ⑨ 山形大学基金HPへの寄附者ご芳名等掲載について該当するものにレ印を入れてください。
 - ⑩ 郵便番号、ご住所をご記入ください。ご記入いただきましたご住所宛て領収書をお送りします。
 - ⑪ お名前、ご連絡先電話番号をご記入ください。E メールアドレスのご記入は任意です。
- ※ A 本払込取扱票は「4 連票」となっておりますので、B、C、D もご記入願います。

サークルを
確認する



プロジェクトを
確認する

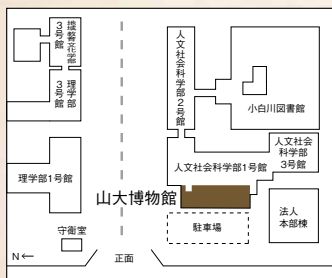




山大博物館

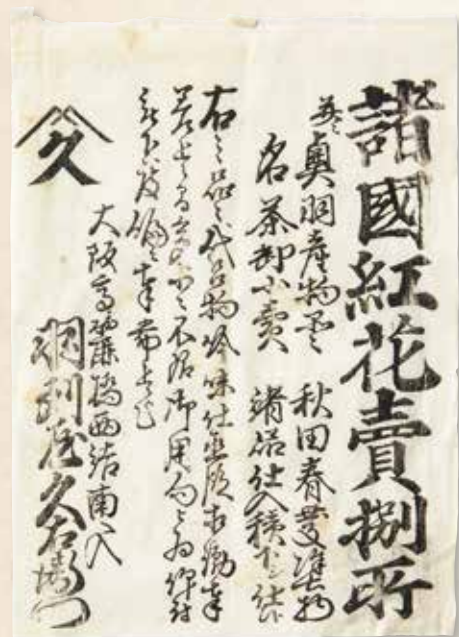
シリーズ ④1

山形大学附属博物館の収蔵品をはじめ、大学が誇る貴重な資料を紹介いたします。



「紅花売捌所」引札

縦15.6cm×横11.2cm



登場人物



けっぱつちゃん
(山形生まれ)



たこやき
(大阪生まれ)

たこやき こどここや？さむ〜！んっ、あんた誰？

けっぱつ (以下:けっぱつ) 私、けっぱつちゃん。

たこやき けっぱつ？結髪か散髪かしらんけど、何のようやねん。

けっぱつ ここは山形大学附属博物館だよ。この貴重な史料を紹介してあげる！

たこやき なんや唐突に！山形大学！？山形なんか、興味ないねん。

けっぱつ そう、それならますます紹介してあげなくちゃ。まーこれを見て。

たこやき いらんっていうてるやろ。なんやこの紙切れは！！んっ？
大阪高麗橋西詰？あれ？大阪の話？

けっぱつ そう。これは大阪で紅花などを取り扱っていた羽州屋の引札なの。引札は今の広告チラシだよ。久右衛門は、山形県小泉村造山〔河北町〕で庄屋も務めた日塔家出身。幕末、山形の薬師問屋高田家の養子となり、大阪へ出て羽州屋を名乗り商いを始めたんだ。弟の久左衛門は造山で万屋と号して紅花などを集荷し、大阪の久右衛門へ送っていたよ。

たこやき ふーん、大阪の商人のふるさとは山形ってことか。

けっぱつ たこやきはイトマンって商社知ってる？

たこやき 知ってるよ、大阪発祥の総合商社やろ。かつて日本で名が知られた会社やで。でも、1991年の「イトマン事件」で経営破綻したけど。

けっぱつ そのイトマンは羽州屋が始まりなの。初代伊藤万助の兄が久右衛門から暖簾分けされた羽州屋を万助が継いだの。

たこやき えっえっ！！羽州屋がああイトマン？？？大阪を代表する商社が山形系譜！驚き。

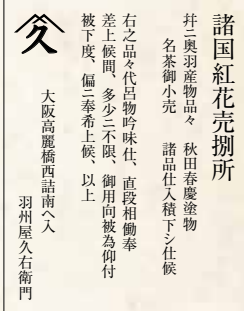
けっぱつ 江戸時代から北前船で山形と大阪は、強く結びついていたの。今は忘れられているけど。

たこやき この紙切れはそれを物語る一枚ってことか！これは、恐れ入ってございます。

けっぱつ 大阪の繁栄の陰に山形あり！ってこと。わかってくれたらいいのよ。じゃー今日はこれくらいで許したるわ！！

(附属博物館学芸研究員 大喜直彦／
地域教育文化学部 教授)

*参考文献 三泉村誌編集委員会編
『三泉村誌(一)』同委員会、1971年



今号の
表紙

山形大学が社会と「共に育ち、共に創り、共に生きる」を実践し、一人ひとりが幸せを手にする世界を目指すために打ち出した将来ビジョン。今号の特集では将来ビジョンについて玉手英利学長に詳細なインタビューを行った。

●この「みどり樹」は山形大学ホームページでもご覧になれます。

山形大学 みどり樹 検索

●「みどり樹」は、年2回(春号・秋号)発行する予定です。

●みどり樹WEBアンケートを実施中です。ご意見や感想をお寄せください。

